

# 支援隊の活動①

## 被災状況調査・被災地支援活動

### 第2回 平成23年4月5日～9日

震災から約1ヶ月後の4月5日～9日の5日間、現地調査および安否確認や支援活動を行うために、再び被災地を訪問。今回は宮古市への再訪に加えて、釜石市や大船渡市（いずれも岩手県）にも足を踏み入れた。各被災地では避難所を回り、視覚障害被災者の安否確認と取材、物資提供を行った。

#### 4月5日、盛岡市



4月5日は盛岡で岩手県庁等を再度訪れ、情報収集をした。写真は岩手県視覚障害者福祉協会の副理事長三浦さんとの情報交換の様子。

#### 4月6日、宮古市を再訪



宮古市役所の4月（左）と前回3月（右）の様子。津波被害により機能不全に陥っていたが、3月26日にようやく全館の電気が復旧し、コンピューターが作動した。

#### ●宮古市街地の様子



4月6日現在の市街地。震災の爪痕が色濃く残る。



## ●宮古市の避難所



小学校のグラウンドで炊き出しを行う自衛隊。

左) 視覚障害被災者の母親から話を聞く。  
右) 持ち主の分からない写真が避難所に集められていた。



## 4月7日、釜石市へ

鉄鋼の町・釜石を訪れたのは4月7日。発災1ヶ月を目前にして町のいたるところに瓦礫が横たわっていた。避難所についての情報が錯綜しており、その混乱ぶりから被害の大きさが想像できる。避難所は場所によっては衛生状態が劣悪なところもあり、発災直後かと思われるほど。この頃になると、全国から駆けつけた多くのボランティアの姿が見られた。



港は壊滅的な被害を受けた。



打ち上げられたタンカー。

支援隊の活動①  
被災状況調査・被災地支援活動  
第2回 平成23年4月5日～9日

●釜石市街地



左下) 多くの信号機が倒壊していた。  
右下) 瓦礫の中にはぬいぐるみ等、生活用品  
や思い出の品が数多く散乱している。



●視覚障害者から話を聞く

市内の避難所で視覚障害者についての情報を得て、近くの障害者施設「釜石市身体障害者福祉センター」へ。そこでは視覚障害の兄妹が避難生活を送っていた。彼らに震災以降の生活について話を聞いた。



視覚障害の兄妹。2人は高台にある避難所から、慣れ親しんだ障害者施設へ移ってきた。ただ、この施設は避難所に指定されておらず、物資配給の対象ではない。食料は近くの避難所からもらっているが、この先の食料に不安を抱いていた。

## ●ひろがる支援の輪



駅近くに設置された「ボランティア受付派遣所」。



届けられた物資の物流拠点。



避難所の小学校に設けられた赤十字病院。



大阪市現地対策本部。



大阪市からは自転車が寄付された。

## 4月8日、大船渡市へ

宿泊地の遠野市から車で大船渡市へ。前日の夜遅くに起きた大きな余震により、岩手県内の広範囲が停電。少しでも早く復旧に取り組もうとしている同市に追い打ちをかけるかのようだ。

大船渡市は南北に走る45号線を境に光景が極端に異なる。海側は文字通り爆撃を受けた直後のような惨状が広がっていた。海の近くの工場群もほぼ壊滅状態。目の前にある光景に言葉を失った。

支援隊の活動①  
被災状況調査・被災地支援活動  
第2回 平成23年4月5日～9日

●大船渡市の被害の様子



無人と化した海沿いの町に、知的障害の男性が一人様子を見に来ていた。自然と声を掛け合い、男性の話に耳を傾ける。



## ●視覚障害者から話を聞く

避難所になっていた文化会館兼図書館のリアスホールにて、陸前高田市から避難してきた視覚障害者とその家族に話を聞く。



視覚障害者に避難所生活での問題点を聞いたところ、真っ先に挙げたのは入浴に関する事柄。自衛隊が野営用のお風呂を設営してくれるものの、手すりがなく、弱視の場合は薄暗さも大きなネックだ。また入浴時間に制限があるなど、視覚障害者や高齢者にとって使い勝手はあまり良くないという。

インタッチは翌日、岩手県庁内の障がい保健福祉課を訪れ、視覚障害被災者たちから伺った問題点を報告。入浴に関しても視覚障害者に配慮してもらうよう、各市の担当者に連絡をしてもらった。

## ●市内各地の避難所



被災者の生活スペースはステージの上にまで及んでいた。



避難所の様子を関係者からヒアリングするインタッチスタッフ。



仮設の水タンク。

## 支援隊の活動② ラジオを通じた長期「情報支援」活動

「新たな国づくり」の自覚が求められる、未曾有の大災害。阪神大震災の時と同じように、東日本大震災で被災した人々は、長い長い苦難の道を戦い抜いていかなければならない。

被災を免れて遠くにいる私たちとしては、支援を継続していくためにも、せめて被災者の艱難辛苦に思いを馳せ続けたいと願う。被災した人々とメディアを通して見聞きしただけの人々の間には計り知れない距離がある中、記憶を維持するよい手立てはないものか。私たちは、「情報にシフト」することを決定した。

### ●ラジオを通じた長期「情報支援」活動の内容

1. 被災地FMラジオ局との連携・番組配信
2. 緊急告知防災ラジオ約500台を被災地で配布
3. 防災対策に関する現地打合せ・意見交換



被災地に配布したラジオ。



ラジオを配布され、説明を受ける大船渡市のボランティアグループ「せきれい」。

## 被災地FMラジオ局と連携

インタッチではネットワークによる情報支援を実施するために、被災地のラジオ局を訪問してきた。みやこさいがいエフエム（宮古市）、エフエム・ワン（花巻市）、おおふなとさいがいエフエム（大船渡市）の3局と協働することで合意。情報支援の一環として、平成23年4月25日から、みやこさいがいエフエムの番組をJBSが再送信し、全国に被災地の生の声を配信している。